今回は
焚き火！

2023
8
月号

taga-machi press

たがまち

通　信

第７回若者会議
“When You Wish upon Fire!”
開催しました！

TOPIC

❶若者が考える「日本一暮らしやすいまち」って？

❷サードプレイスの可能性
こども・若者の意識と生活に関する調査より

❸市長メッセージ

若者が考える

日本一暮らしやすいまちって

2023.7.1開催

今回の若者会議のテーマは、「日本一暮らしやすいまち」。

やや固いテーマであるものの、リラックス効果があると言われる焚火を囲み、この街の未来の姿や、この街でどんなことを実現したいのか、「願い」を切り口に語り合いました。

参加者からは、「全世代が交流できる施設がほしい」「挑戦を続けられる街であってほしい」などの意見が出されました。

当日の参加者は、16～27歳と最大11歳差でしたが、年齢差を感じさせない活発な意見交換が行われました。

話し合いの中で生まれた「暮らしやすい」アイデアの一部をご紹介します。

“暮らしやすい”アイデアたち

- ほかにも市SNS・HPへ掲載中！
- バージョンアップした児童館をつくる
- 自分ができることを情報発信する
- 子どもも高齢者も参加できるイベント
- 全世代が交流できる施設
- 市と市で交換留学！
- きれいで衛生的なまち
- 安心安全をシティセールスに
- スタートアップ事業を全力でフォロー
- おむつ定期便 ベビーカー補助
- 学校と家以外の居場所をつくる

PICK UP

第三の居場所 3rd place

家と学校・職場以外の第三の居場所（サードプレイス）。

ストレスの多い現代社会において、ストレスから解放される第三の居心地のいい居場所の必要性が説かれています。

参加者からの「家と学校以外、多賀城市内で過ごす場所がない」という話から、サードプレイスについての意見交換につながりました。

参加した高校生の一人からは、児童館は対象年齢が0～18歳であるものの、中学・高校生になると利用しづらくなってしまうとの意見があげられました。

また、別の20代女性からは、年代によって場に求めるサービスや機能が違うため、それぞれに合った商業施設を誘致できないかという意見が出されました。

一方で、サードプレイスの存在は、どのような効果を生み出すのでしょうか。

サードプレイスがもつ可能性

内閣府では「こども・若者の意識と生活に関する調査」で、15～39歳を対象とし、居場所に関する調査を行っています。

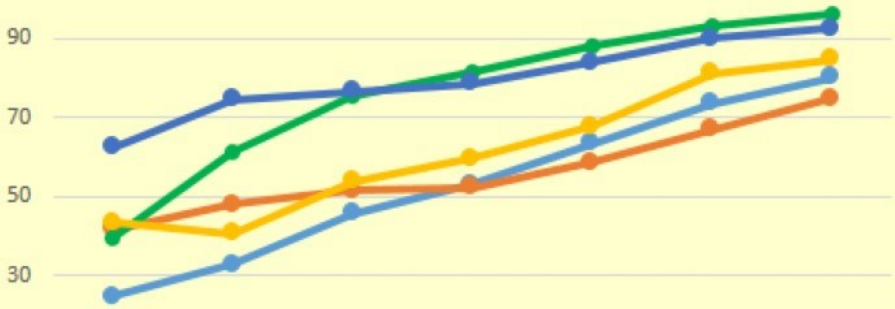
調査結果として、「安心できる場所」「相談できる人がいる場所」「困ったときに助けてくれる人がいる場所」といった心地よい居場所の数の多さと、「自己肯定感」「チャレンジ精神」「今の幸福感」「将来への希望」「社会貢献度」の高さ等、内面のポジティブさに相関関係が認められます。

居場所を多くすれば、内面がポジティブになると結論づけることはできませんが、まちづくりのヒントとなる興味深い調査結果ではないでしょうか。

また、同調査内では「家庭」「学校」「職場」に、“相談できる人がいる”“助けてくれる人がいる”と回答した人の割合が比較的高くなっており、第一・第二の場所では、濃い人間関係が築けている傾向がわかります。

本市においても、「縮充」の視点で公共施設の在り方を検討していくことが求められますが、単なる「箱」としての施設ではなく、人とのつながりを生む機能に着目した場をつくることが、新たなサードプレイスとなり得るのかもしれません。

「安心できる場所」の数との関係



場所の数	0	1	2	3	4	5	6
自己肯定感	24.5	32.7	45.6	53.1	63.5	73.5	80.3
チャレンジ精神	41.5	47.9	51.6	52.2	58.5	67.1	74.8
今の幸福感	39.6	61.1	75.7	81.5	88.2	93.5	96.5
将来への希望	43.4	40.6	53.9	59.5	67.8	81.2	84.7
社会貢献意欲	62.3	74.6	76.6	78.7	83.9	90.2	92.5

内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」より作成

若者会議を経て

市長メッセージ

泣いている子どもに声をかけたら…

多賀城市議会議員になる前、泣いている子どもを見かけたので、心配して声をかけたら防犯ブザーをならされたことがありました。驚いたことに、ブザーの音がなっているにも関わらず、それに気づいたであろう周りの大人が寄ってこない。防犯ブザーの音を知らないのか、他人に関心がないのか。自分が防犯ブザーをならされたことよりも、子どもを助けようとする大人がいない、それが悲しかった。

小さなおせっかいが育ち合うまちに

自分が子どもの頃は、横断歩道ではないところを渡っていたら、知らないおばさんからゲンコツされたり、そういう「おせっかい」が当たり前にありました。今のような、他人に干渉しない世の中が本当にあたたかい街といえるのかと考えた時に、それは違うなと感じました。

公共施設の在り方を考えるときに、建物自体ではなく、その機能を大切にしたいと考えています。例えば公民館と児童館の機能を併せ持ったり、いろんな年代の人たちが関わりながら、小さなおせっかいが育ち合うまちになったら素敵だなと思っています。

第7回 若者会議を終えて

今回の通信では、会議で話題にあがったキーワードのうち、「サードプレイス」を取り上げました。建物をつくるだけでなく、若者会議のように、家族や学校・職場以外の人とゆるやかにつながれる機会をつくることも、居場所づくりの一つに成り得るのではないでしょうか。そして、そこから個人の活力を生み、それが市の力につながっていくのかもしれません。

今後のサポートチームの活動も、これまで以上に多賀城市政に活かせるよう、その方法を模索し続けたいと思います。次回の秋実施予定事業に向けて、始動しています。

T-FLAGS（多賀城の若者　みらい創造事業）って？

この事業は、多様な感性や価値観、豊かな創造力を活かせるようにスタートしました。交流の場を通して、共に多賀城を創造するためのアイディアを出し合い、実践につなげることを目指しています。「T-FLAGS」の愛称は、第六次多賀城市総合計画将来都市像ロゴマーク「たがじょうばた」を旗になぞらえて、多賀城の未来を身近に考えたり、実践する場（活動）という意味が込められています。

“Tagajo Future Local Activation Group Session”